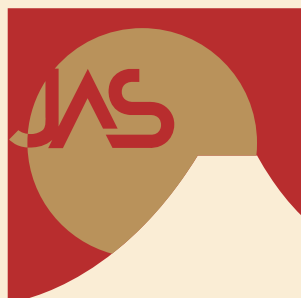


農福連携による持続可能な社会の実現

# ノウフクJAS

ノウフク



# はじめに

私たちが生きていくうえで、大切な「食」。

日本の「食」を取り巻く情勢は大きな変化を迎えています。特に近年、気候変動による食料生産の不安定化、世界的な人口増加等に伴う食料争奪の激化、国際情勢の不安定化などにより、いつでも安価に食料を輸入できる時代ではなくなっています。

他方で、国内の人口減少は、農村で先行しており、農業者の減少や高齢化が著しく進展する中で、多様な人材を農業に呼びこみ、将来にわたって持続可能な食料の供給基盤を構築することが重要な課題となっています。

また、持続可能な開発目標（SDGs）では、すべての人々にとってよりよい、持続可能な未来を築くため、貧困や不平等、気候変動、環境劣化、繁栄、平和と公正など、私たちが直面するグローバルな諸課題の解決をめざすことが掲げられています。

貧困・飢餓といったSDGsの取組課題についても、決して他人事ではありません。障がいを持つ人、生活困窮者、ひきこもりの状態にある人、犯罪や非行をした人をはじめとする社会で生きづらさを抱える人の中には、働く意思があってもうまく仕事とマッチできず、安心して働ける場を必要としている人がいます。

このような中で、農業と福祉（障がい者）が手と手を取り合い、誰もが個々の特性を活かして活躍できる持続可能な社会の実現をめざす取組が「農福連携」です。

農業現場では、様々な種類の作物が生産され、種まき、水やり、草取り、収穫、袋づめ、加工など多様な仕事があり、その中でも、体力を活かせる作業、反復継続が求められる作業、動物や植物が好きな人に向いている作業など、幅広い作業があります。障がい者などが、個々の特性を活かせる作業に出会い、活躍することで、農業の貴重な働き手となるとともに、賃金（工賃）の向上を通じた生活の質の向上も期待されます。土や自然に触れながら働くことで、表情が明るくなった、体力がついて長時間働けるようになったなどの心身へのプラス効果が見られる人や、自分に合った仕事と出会えることで、昨日までできなかったことが今日ではできるようになる人がいます。農福連携では、得意なことを仕事として、自己の可能性を広げることができるのです。

本パンフレットでは、農福連携の価値に共感し、ノウフクJAS商品の取扱いを始めた企業の取組事例を紹介しています。農業と福祉の連携に、様々な企業が加わることにより、人と地域が元気になる持続可能な社会の実現に向けた可能性が広がっていきます。本パンフレットを手にした皆様が、農福連携への参画を通じて、新たなステップを踏み出していただくことを期待しています。

2024年3月

農林水産省 農村振興局都市農村交流課 農福連携推進室

ノウフク

農福連携による持続可能な社会の実現

# ノウフクJAS

農福連携について	2
企業が農福連携に参画する意義	3
企業のノウフクJAS商品の活用事例	4
参考資料	
農業と障がい者福祉の現状と課題	12
農福連携の取組意義と課題	13
農福連携等応援コンソーシアム	14
消費者心理(エシカル消費)と農福連携の関係	15
ノウフクJASの概要	16

本パンフレットでは、次のノウフクJASマークを統一して使用します。

なお、このノウフクロゴマークは、ノウフクJAS登録認証機関である一般社団法人日本基金の商標登録です。その他の登録認証機関により認証されたノウフクJASマークについては、「ノウフク」の表示が異なります。



# 農福連携について

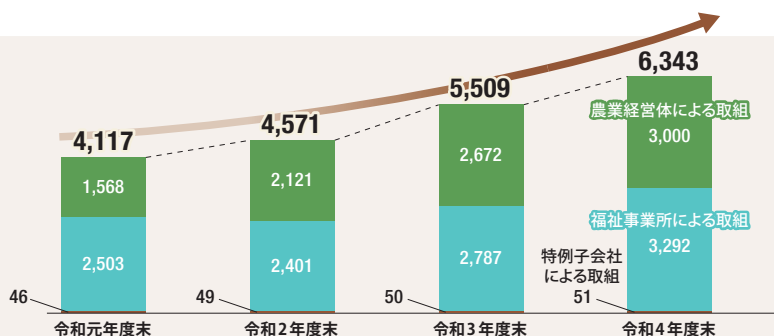
農福連携は、農業と福祉が連携し、障がい者の農業分野での活躍を通じて、農業経営の発展とともに、障がい者の自信や生きがいを創出し、社会参画を実現する取組です。



## 「広がる取組の輪」

農福連携の取組は全国で着実に広がっています。

出典：農林水産省「農福連携の取組主体数について（令和4年度）」



# 企業が農福連携に参画する意義

農業を通じて個々の活躍をめざす農福連携は、SDGsの理念である「誰一人取り残さない」社会の実現につながる取組です。農業と福祉の連携に企業が加わり、農福連携の商品を取り扱うことや、商品開発を行うことで、SDGsの10のゴールの達成に向けた可能性が広がります。



## 農福連携が貢献するSDGs

農業	
<p>▶ <b>農業労働力の確保</b></p> <p>担い手不足が深刻な農業分野において、障がい者が活躍することにより、労働力不足が解消され、持続可能な生産体制の維持に貢献します</p>	
<p>▶ <b>国内農業の維持・発展</b></p> <p>国内で増加している荒廃農地の解消や、里山の保全による多面的機能の維持などにより、国内農業や持続可能な食料生産システムの維持、発展に貢献します</p>	
<p>▶ <b>地域コミュニティの維持</b></p> <p>高齢化、過疎化が進む農山漁村において、障がい者が活躍し、地域内での交流が広がることにより、誰もが住みやすいまちづくりに貢献します</p>	
福祉	
<p>▶ <b>障がい者が働く場の確保</b></p> <p>農業は栽培・収穫・出荷・販売など多様な作業があり、個々の特性を活かした仕事により、一人ひとりに合った働きがいの創出に貢献します</p>	
<p>▶ <b>賃金(工賃)向上</b></p> <p>障がい者をはじめとする社会で生きづらさを抱える人々の収入が増加することにより、生活の質の向上に貢献します</p>	
<p>▶ <b>健康増進や生きがいづくり</b></p> <p>農作業を通じて「長時間働けるようになった」「表情が明るくなった」等の効果が見られるなど、健康的に生活できる社会づくりに貢献します</p>	

# 企業のノウフクJAS商品の活用事例

農福連携の商品のうち、障がい者が生産行程に携わったことについて  
第三者の認証を受けたものには、「ノウフクJAS」のマークを表示することができます。  
農福連携の理念に共感し、ノウフクJAS商品を取り扱う企業が増えています。

## ノウフクJAS（障害者が生産行程に携わった食品の日本農林規格）

産地や品種、栽培方法を軸とするブランドではなく、農福連携商品の背景にある社会的価値がブランドの軸となっているという点に特色があります。



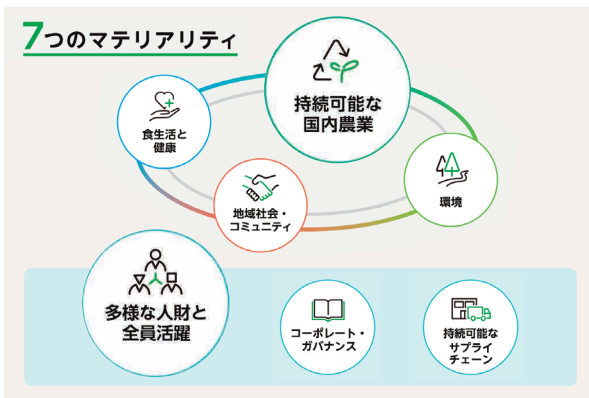
## 株式会社伊藤園 × 足久保ティーワークス茶農業協同組合

### ノウフクJAS商品の活用で 社会課題の解決に寄与

株式会社伊藤園（東京都渋谷区）

株式会社伊藤園は「お〜いお茶」などの茶系飲料や茶葉製品のメーカーとして農業に深く関わっており、農福連携等応援コンソーシアムに参画しています。2022年には、静岡県で農福連携により茶を生産する足久保ティーワークス茶農業協同組合（静岡県）が生産するノウフクJAS認証茶葉を100%使用した「ふんわり香る静岡茶」を発売しました。

ノウフクJAS認証茶葉を100%使用の「ふんわり香る静岡茶」の発売は、伊藤園が長年培ってきた、茶産地との深いつながりを活かした社会課題解決への取組です。当社は中長期経営計画（2023年4月期～2027年4月期）に合わせて特定したマテリアリティ（重要課題）である、「持続可能な国内農業への貢献」と「多様な人財と全員活躍の推進」の対応の一環として農福連携の取組を開始しました。本商品は静岡県で農福連携に取り組む足久保ティーワークスで栽培されたノウフクJAS認証茶を100%使用しており、さわやかな香りと濃厚な旨みが特長です。現在、直営の茶専門店と通販サイト「TEASHOP ITOEN」で販売しており、足久保ティー



ワークスの茶葉は高品質であると認識しています。今後も、茶生産者と深く関わる独自の「茶産地育成事業」の一環として、足久保ティーワークスと契約取引を継続し、引き続き「農福連携」の取組に参画していきます。

株式会社伊藤園 仕入部長 横道泰隆さん

## ノウフクJAS認証の取得により 経営が安定化

足久保ティーワークス茶農業協同組合（静岡県静岡市）

2022年3月10日 認証

静岡茶の発祥の地であり、800年の歴史をもつ足久保では、1997年に足久保の茶農家が集まり、「足久保ティーワークス茶農業協同組合」を発足しました。高齢化や後継者不足、荒茶価格の低迷により厳しい状況にある中、組合長が代表を務める株式会社よしもとが運営する就労継続支援A型事業所よしもとファームにおいて、農福連携の取組を開始しました。現在は組合としても、よしもとファームを含む6つの福祉事業所に施肥などの作業を委託しています。

2020年、株式会社よしもとが組合員に先駆けてノウフクJAS認証を取得したことをきっかけに、伊藤園には一番茶から秋冬番茶まで希望価格で購入していただきました。2022年には組合としてノウフクJASを取得し、こちらも伊藤園に適正価格で全量買い取っていただきました。ノウフクJASを取得したことで、**伊藤園にはほとんど希望する価格で荒茶を買い取っていただいています**。また、伊藤園の商品「ふんわり香る静岡茶」は、地域における障がい者への理解促進にもつながっています。伊藤園以外での取引においても、余裕を持った条件・価格設定ができるようになりました。苦境に立たされる茶業界ですが、農福連携による労働力の確保によって経営に余裕ができたことで、荒廃農地を引き受けることができます。福祉事業所にとっては「仕事があって助かる」という声もあり、今後は通年で茶栽培の作業ができる体制を作っていきたいです。



足久保ティーワークス茶農業協同組合 組合長  
株式会社よしもと 代表  
吉本邦弘さん



## ノウフクJAS商品の取扱いが 企業のCSV経営の推進に貢献

星野リゾート（長野県軽井沢町）

農福連携の商品のPRを目的とした商談会に参加したことがきっかけで、農福連携の事業者と取引が成立し、2022年から「星のや軽井沢」の披露宴会場で株式会社ウイズファーム（長野県）のりんごジュースを提供しています。また、翌年からは、同社グループが運営する磐梯山サービスエリア（上り）で富士ソフト企画株式会社（福島県）のしいたけの加工品を販売しています。

両商品とも市場にある商品と比べても品質が高く、価格面や生産されている背景を含め取引に至りました。ノウフクJASは、購入商品を決める際の決め手の一つになり得ます。りんごジュースについては、味の良さはもちろん、信州らしさを感じていただける商品としてお客様に好評です。当社では、「自然環境」がリゾートの資源の1つだと考えており、CSV達成のためゼロエミッション（単純な焼却や埋め立てをせずに、排出するものをリサイクルやリユースにまわすこと）を掲げて取り組んでいます。

軽井沢事業所（星のや軽井沢・軽井沢ホテルプレス



トンコート）は 2011 年にホテル・旅館業界で初めて廃棄物の再資源化率100%を達成しました。ノウフクJASの商品を取り扱うことも、CSV経営※を促進するための一つに位置付けており、今後、全国各地の宿泊施設にも取扱いを拡大していくことで、農福連携の取組に貢献できたらと考えております。

星野リゾート  
オペレーションマネジメントグループ 購買ユニット  
滝沢克彦さん



※CSV (Creating Shared Value) 経営とは、事業を通じて社会課題を解決することを重視した考え方で、社会課題を解決することが自社の経済的な利益につながる、という概念

## ノウフクJAS取得でりんごの販路拡大

株式会社ウイズファーム（長野県松川町）

2019年11月1日 認証（第1号）

株式会社ウイズファームは、農業を通じた障がい者の工賃向上をめざして、りんごやぶどう等の生産を行っています。個々の特性に応じた作業分解を通じて、今では生産行程のほとんどを障がい者が担っています。地域で離農する高齢農家などから農地を積極的に借り入れて、地域の農業の中心的な担い手となっています。さらに、全国で第1号となるノウフクJAS認証事業者として、農福連携の認知度向上と販路拡大に積極的に取り組んでいます。





ノウフクJAS 認証を取得したりんごジュースは、「**OMOTENASHI SELECTION**」を2021年から2年連続で受賞するなど、品質も高く評価いただいています。町立の温泉施設では、りんごの名産地としての公平性を守るために、市場購入のりんごのみの取扱いでしたが、**ノウフクJASは障がい者が生産に携わっている証**として、**特別に販売**されるようになりました。隣県のスーパーマーケットからは、「りんご一個ずつにノウフクJASシールを貼っ

てほしい」と熱い要望も受けています。更に、長野県のアンテナショップ「銀座NAGANO」では、**1個350円のノウフクリんごが真っ先に完売**しますし、B級品のりんごも一般的な相場の倍以上の値が付くなど、**ノウフクJAS 認証取得による効果**に驚かされることが多いです。

株式会社ウイズファーム 代表取締役  
森下博紀さん



## 障がい者の力で地域農業を活性化

富士ソフト企画株式会社（福島県西会津町）

2022年12月13日 認証

富士ソフトグループの特例子会社である富士ソフト企画株式会社の運営する西会津しいたけファームでは、障がい者4名を雇用し、自然豊かな西会津町でノウフクJAS取得のしいたけ栽培に取り組み、生産したしいたけは町内の加工場で椎茸混ぜご飯の素やオリーブオイル漬けなどに加工されています。「自立と貢献」と「生涯働ける会社」を経営理念に掲げ、障がい者も健常者も分け隔てなく、収穫、選別、出荷など多様な作業で活躍しています。



富士ソフトグループでは、社会貢献の一環として東日本大震災の復興支援やボランティア活動を行ってきました。活動を通じて、西会津町で「全国キノコ食味&形のコンテスト」で最優秀賞に輝くほど高品質のしいたけを栽培する農家と出会い、その技術を継承し、**地域農業を活性化**させることを目指して「西会津しいたけファーム」を設立しました。取組当初はハウス3棟で生産を行っていましたが、行政の支援などもあり、現在は5棟で生産を行い、2024年度にはさらに2棟を増築予定です。障がい者が農業に携わる証となるノウフクJAS 認証の取得は自然の流れでした。障がい者をオープンにすることで、**地域における障がい者への理解促進**や、**生産物の販路拡大**、さらにはIT企業でありな

がら地域農業の担い手となっていることに対する**企業のイメージアップ**にもつながっています。このたび会津エリアに星野リゾートのホテルがあるご縁もあり、同社が運営する磐梯山SA（上り）の売店での取引が決まりました。しいたけや加工品は、親会社の株式優待としても活用され、「IT企業なのに面白い」と評判です。また、菌床しいたけの品評会「**全国サンマッシュ生産協議会品評会**」では、**2016年から7年連続で金賞**をいただき、確かな品質を認められています。

富士ソフト企画株式会社  
西会津しいたけファーム  
アグリビジネスグループ 会津営業所 所長  
中村寛基さん



## 障がい者の丁寧な手しごとが 質の高い商品づくりを実現

千房ホールディングス株式会社（大阪府大阪市）

2021年に株式会社和光ワールドのノウフクきくらげを使った製品「国産きくらげ入り豚モダン焼」を開発したことをきっかけに農福連携等応援コンソーシアムの活動に参画しました。2023年には、生産者とバイヤーの展示商談会「ノウフク見本市」や新宿マルイ本館での販売イベント「ノウフク・ショップ」で商品のコーディネートを行うなど、農福連携の認知度向上に向けた取組にも参画しています。

ノウフクJASの商品は品質が良いと感じます。以前、農福連携に取り組む福祉事業所の施設長が「茶は手摘みだと異物の混入を限りなく抑えて生産できる」とおっしゃっていましたが、和光ワールドのきくらげをはじめ様々な商品においても、**障がい者の丁寧な手しごとが品質に大きく寄与している**と感じます。実際に、農福連携の展示会に集まる**流通関係者からも良い反応**が得られています。

**食品業界の立場からすると、農業の高齢化・労働力不足等は喫緊の課題**であり、農家に対しても農福連携への理解を進めていき、労働力確保のために連携していきたいです。東京オリンピックや大阪・関西万博の調達基準にノウフクJASが位置付けられたように、今後より一層ノウフクJAS商品の調達を奨励する制度が増えていくことで、ノウフクJASの社会的価値が向上していくことを期待しています。当社における就労支援としては、当社の創業者で会長の中井が発起人となり、2013年から刑務所出所者を企業で受け入れ、**自立更生を図る「職親**



**プロジェクト**」を法務省と連携して企業7社の合同で立ち上げました。元受刑者を継続して受け入れており、現在も複数の元受刑者が在籍して、店舗で頑張って働いています。まだまだ課題もありますが、自立更生に向けた就労支援に取り組むことで社会に貢献し、企業としての役割を果たしていきたいと考えております。

千房ホールディングス株式会社 部長  
小岩隆志さん



## ノウフクJASを通じて 商品の背景にある価値を伝える

株式会社和光ワールド（愛媛県伊予市）

2021年6月14日 認証

株式会社和光ワールドでは、地域の福祉事業所と連携してきくらげの生産・加工を行なっています。障がい者が生産行程に関わり、水やり、収穫、選別などの作業に多く手をかけることで、きくらげのサイズや形など、顧客の細かいニーズに合わせた丁寧な商品づくりを行っています。グループ全体で3名の障がい者を正社員として雇用しており、乾燥きくらげのパッケージを障がい者がデザインするなど、得意分野を活かせる職場環境を創出しています。

和光ワールドでは、自発性が生まれるように個々の特性に合った作業工程を組むことと、協調性が生まれるようにみんなで協力する作業を作ることで、一人ひとりが成長できる職場づくりを意識しています。ノウフクJAS 認証を取得したことで、品質の良さやストーリーを説明しやすくなり、県内外の**食品メーカーとの商品開発**や**販路の拡大**に積極的に取り組んでいます。千房は刑務所出所者の支援に積極的に参画していたことから、障がい者の就労支援にも当初から前向きで、パッケージにノウフクのロゴマークを入れた「国産きくらげ入り豚モダン焼」として短期間で商品化に至りました。

最近では、居酒屋「月あかり」などを展開する外食大手の株式会社オーイズミダイニングに農福連携の取組の重要性を理解していただき、経営する**約20店舗できくらげの取扱い**が始まりました。

取引先や消費者に農福連携について説明をすると年々反応が良くなっており、**商品の背景を考えて購買をする方が増えている**と実感しています。



ノウフクJASは、消費者が商品の背景にある価値を「理解して消費している」という幸福感や、充実感、誇りを感じてもらえる認証マークだと思います。

株式会社和光ワールド CBO  
島田充智さん

（一般社団法人green sight 代表理事）



## 企業ブランディングにも寄与するノウフクJAS

株式会社八天堂(広島県三原市)

株式会社八天堂ファーム(広島県三原市)

2022年7月20日 認証

「冷やして食べるくりむパン」が人気の株式会社八天堂のグループ会社である株式会社八天堂ファームは、社会福祉法人宗越福祉会と連携して八天堂ぶどう園を運営し、生活困窮者の自立支援を目的とした就労訓練事業を行っています。

(森光代表) 1991年、広島県で和洋菓子店を営む3代目として新たに焼き立てパンの販売店をはじめました。10年足らずで県内13店舗まで拡大しましたが、無理な店舗拡大等により経営が悪化してしまいました。当時は忙しくて寝る時間もないほどでしたので、経営者の勉強会などは辞めざるを得なかった状況でしたが、続けてきた福祉事業所でのパン作り教室の講師だけは辞めようと思いませんでした。私自身の存在価値を失いかけていたのですが、利用者やその家族にすごく喜んでいただけて、「こんな私を必要としてくれている」と思うと嬉しくて、一緒に泣いたこともあります。もう一度やり直すことができたなら、みなさんに恩返しをしたいという強い思いが、私の根底にあります。

(林代表) 私自身の使命感として、**企業の社会的価値の向上とSDGsへの貢献**にどのように取り組んでいくかという課題意識がありました。加えて、森光の恩返しをしたいという思いから、グループとして農福連携にどう取り組むかという命題に挑戦してきました。そんな中で、県立広島大学の社会人大学院に通い、大学院同期に宗越福祉会の理事がいたことや、耕作放棄されたぶどう園との出会いもあり、「**商工農福連携**」というアプローチに行き着きました。「本気で農福連携に取り組む意思表示」の意味も込めて、2022年に八天堂ファームを設立し、当社の農福連携の商品に対して付加価値を付け、ポジティブな印象を持ってもらうために、ノウフクJAS認証を取得しました。

(森光代表) 八天堂ファームの設立を公表すると、内外から「地域にとって大切な取組ですね」などと多くの共感を得ました。具体的な数値目標を定めて取組を進めることで、3年目には



軌道に乗ってきました。**障がい者などの収入が増加し、ご家族の心が軽くなるような取組にできればと思います。**現在、農福連携に共感・共鳴していただけた、**技術力や商品開発力を持った食品メーカーなどと提携し、農福連携の農産物を活用した商品開発を進めているところ**です。美味しさや品質はもちろんのこと、**企業の社会的価値を高めるためのブランディングとして、ノウフクJASは重要な役割を果たします。**

(林代表) ノウフクJAS認証の取得にあたり、まずは当社を象徴する「くりむパン」からということで八天堂ぶどう園の「ぶどう」を使用した商品からはじまり、2023年には、おおもり農園(岡山県)のノウフクいちご「よつぼし」や、JAめぐみの(岐阜県)の「ほろどキウイ」を使った「果実なくりむパン」を展開しました。翌年には、当社が生産した赤ぶどうと株式会社HiOLIがブランド展開する「Butters」がコラボした「バターサンドウィッチ 赤ぶどう」をナチュラルローソンで発売し、**初めてコンビニにノウフクJAS商品が並びました。**このように、八天堂のDNAである、和菓子、洋菓子、パンといった商品にとどまらず、農福連携で生産され、全国の地場に根ざした果実を生かして商品展開していきたいです。**今後とも、価値観を共にする食品メーカーなどと連携し、農福連携をより一層推進していきたいと考えています。**

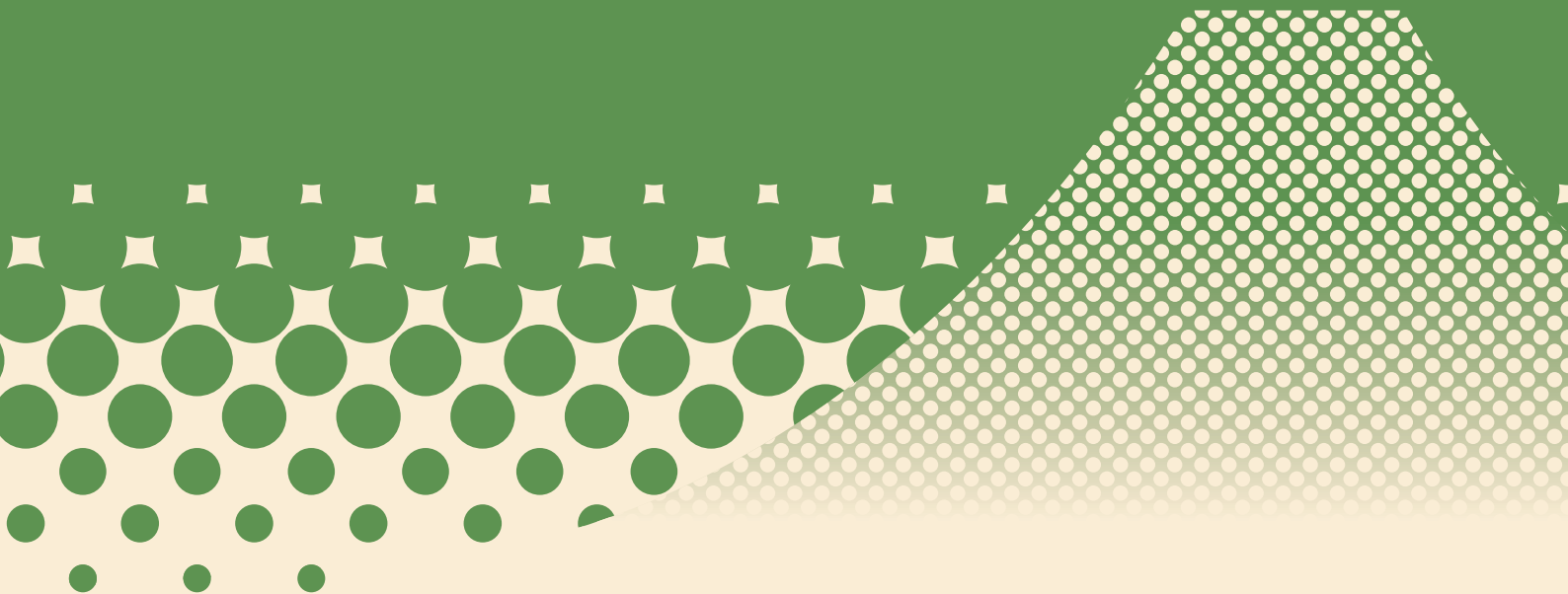


株式会社八天堂  
代表取締役 森光孝雅さん



株式会社八天堂ファーム  
代表取締役 林義之さん

# 參考資料



# 農業と障がい者福祉の現状と課題

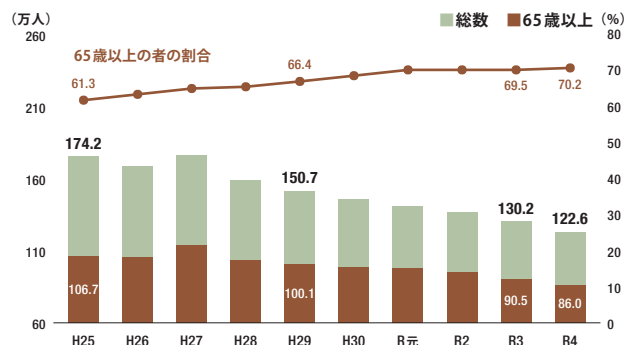
農業では、担い手の減少や高齢化、障がい者福祉では障がい者の働く場の確保、工賃向上など、それぞれが大きな課題を抱えています。

## 農業を取り巻く状況

農業の担い手は直近5年間で約2割減少しており、20年間では約4割減少しています。さらに今後20年で4分の1にまで減少するとの推計もあります。

出典：農林水産省「農林業センサス、農業構造動態調査（各年）」

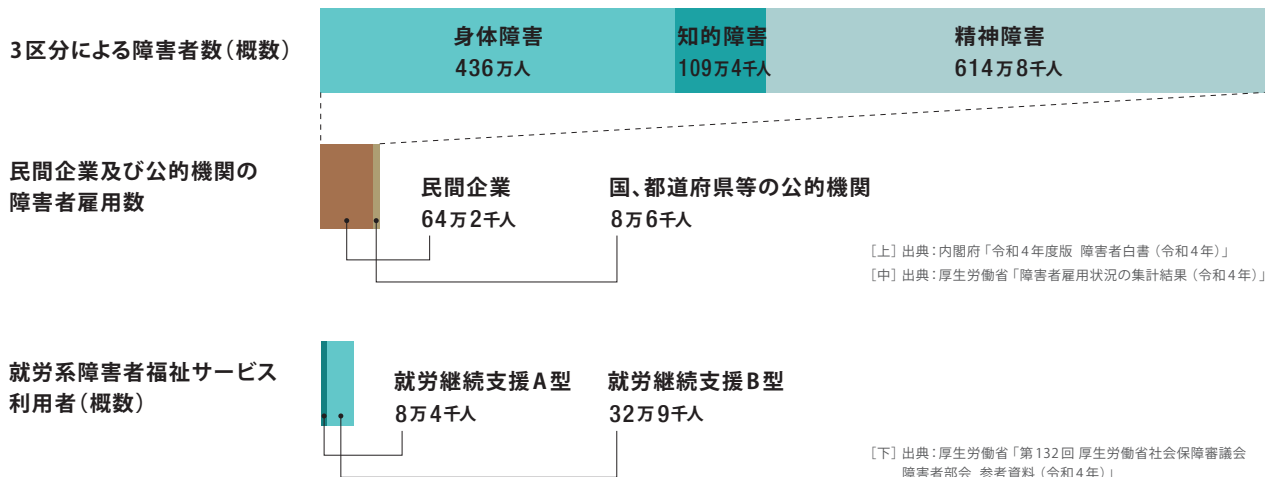
【基幹的農業従事者の推移】



## 障がい者福祉を取り巻く状況

身体障害、知的障害、精神障害3区分での障害者数の合計は、約1,160万人であり、国民の約9.2%が何らかの障害を抱えています。このうち、民間企業※及び公的機関での雇用は約72万人と障害者全体の約6.2%にとどまっています。 ※従業員43.5人以上の企業

一般就労に向けた訓練を行う就労系障害福祉サービスを利用している障害者は約41万人であり、その約8割が雇用契約を締結しない形態である就労継続支援B型事業所の利用者です。その平均工賃月額 は17,031円(令和4年度)と低い状況にあります。



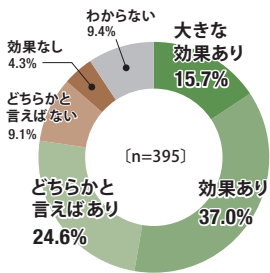
# 農福連携の取組意義と課題

農福連携は、農業経営の発展や障がい者の工賃向上など、様々なプラス効果を生む一方で、事業者にとっては販路の確保が課題となっています。

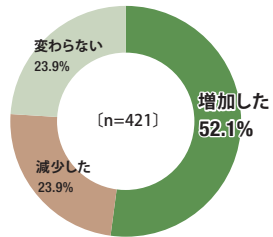
## 農業側のメリット

障害者が農業の貴重な戦力として、農業経営の発展に貢献しています。

### 障がい者等を受け入れることで収益性向上に効果

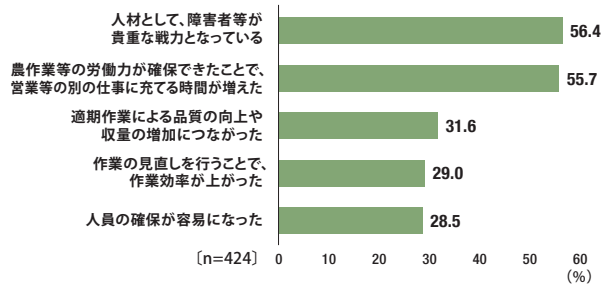


収益性向上に対する効果



農産物の年間売上高の増減

### 障がい者等を受け入れるメリット—農業経営への好影響

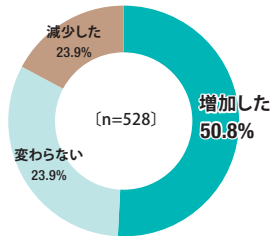


障害者等を受け入れることの効果

## 福祉側のメリット

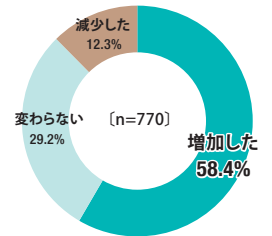
福祉事業所が農福連携に取り組むことで、多くの福祉事業所で賃金(工賃)の向上に貢献しています。

### 農産物の売上高



農産物の売上高の増減

### 過去5年間の平均賃金 又は平均工賃の推移



過去5年間の平均工賃等の増減

### 福祉事業所の課題

生産した農産物の多くが地域内で販売されており、販路の確保を課題とする福祉事業所が多いことから、流通サイドなどと連携して、農福連携の商品の販路の確保と拡大に取り組むことが重要と考えられます。

#### 農福連携を進める上での課題

課題	割合
販路の確保	49.6
障がい者等の適正に応じた作業の創出	48.5
農産物等の安定生産	46.9
農作業中のトイレの確保	43.9
通年での農作業等の創出	43.9

#### 農産物等の販売先

販売先	割合
自法人の施設等	55.7
直売所・道の駅	52.9
イベント	32.7
JA	24.3
スーパー・デパート	22.8
飲食店	16.4
流通業者	14.2

[本ページの全グラフ] 出典：一般社団法人日本基金「農福連携に関するアンケート調査結果(令和4年度)」

# 農福連携等応援コンソーシアムの設立

農福連携は、国を挙げて推進されている政策です。2016年から徐々に取組の輪は拡大し、現在は官民一体となり国民的運動として展開しています。農福連携の中心的なプラットフォームとなっているのが、農福連携等応援コンソーシアムです。

- 2016年 | 閣議決定された「ニッポン一億総活躍プラン」には、障害者や高齢者が最大限活躍できる環境整備の一環として「農福連携」が盛り込まれました。
- 2019年  
4月 | 農福連携の全国的な機運醸成を図り、強力に推進するため、内閣官房長官を議長とした省庁横断の「農福連携等推進会議」が設置され、同年6月には「**農福連携等推進ビジョン**」が取りまとめられました。
- 2022年  
3月 | 農福連携推進ビジョンをもとに、各界の関係者が参加する農福連携等応援コンソーシアムが設立され、2024年1月現在、賛助会員も含めて530の団体、企業、自治体などが会員となって、農福連携の推進に取り組んでいます。

## 農福連携等応援コンソーシアム

### 耕すみんなを応援する

コンソーシアムでは、「ノウフク・アワード」の選定による優良事例の表彰・全国への横展開や、「ノウフク・ラボ」による現場の課題に対する解決策を模索する勉強会、販路拡大に向けた商談会を行っています。

参加省庁 **農林水産省 厚生労働省 法務省 文部科学省**

会員 **経団連、JA全中など 38団体**

賛助会員 **494団体**

※2024年2月末時点

国・地方公共団体、関係団体等のもとより、経済界や学識経験者など、さまざまな関係者を巻き込んだ国民的運動として推進しています。

### コンソーシアムの主な活動

優れた取組を表彰する  
ノウフク・アワード



農福連携の  
現場課題を解決する  
ノウフク・ラボ



## 「ノウフク」のブランド化

「ノウフク」は、農福連携のさらなる認知度向上や理解促進に加え、農福連携の取組によって生まれた農産物の付加価値向上により、販売促進につなげることを目的としたブランドです。「ノウフク」のブランド価値を高めるため、ノウフク・アワードやノウフク・ラボでの活動のほか、ノウフクJAS認証の取得を推進することによってノウフク商品の販路拡大を図っています。





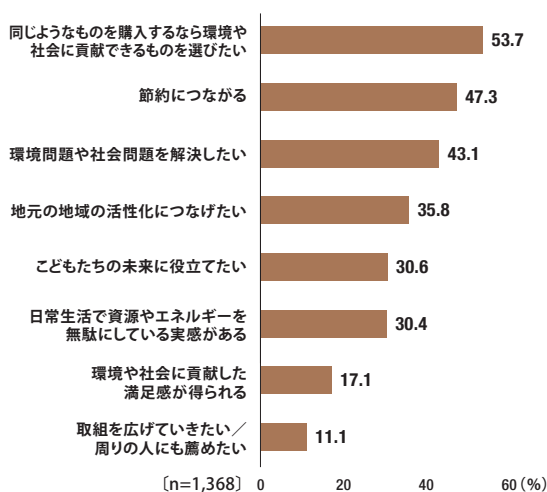
# 倫理的消費（エシカル消費）と農福連携の関係

若い世代を中心に、エシカル消費への関心が高まっています。低コスト・大量生産ではなく、障がい者の手作業で丁寧に作られている農福連携の商品は、エシカル消費の配慮の対象である「人・社会」「地域」「環境」とも深く結びついています。

倫理的消費（エシカル消費）とは

消費者それぞれが各自にとっての社会的課題の解決を考慮したり、そうした課題に取り組む事業者を応援したりしながら消費活動を行うことです

## エシカル消費に取り組む理由



出典：消費者庁「第3回消費生活意識調査結果について（令和5年度）」

農福連携の取組は、  
エシカル消費の配慮の対象となります。

配慮の対象

人・社会

障がい者支援につながる商品の選択

地域

地産地消への貢献

環境

農薬不使用・有機農業などの取組※

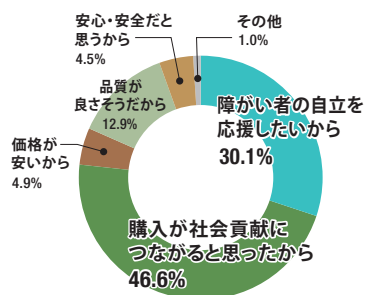
※障がい者の健康に配慮し、農業に頼らない農業を実践している事例が多くみられます。

※消費者庁「エシカル消費特設サイト」を参考に作成

## 農福連携の商品に対するイメージ

消費者と企業に対するアンケート結果から、農福連携の商品を購入することがエシカル消費として、購入の動機につながっていると考えられます。

### 消費者が農福連携の商品を買いたいと考える理由

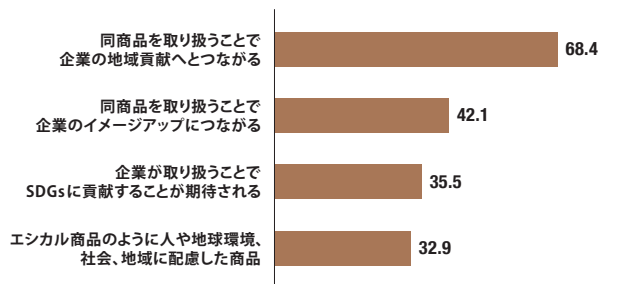


「購入が社会貢献につながると思ったから」46.6%

「障がい者の自立を応援したいから」30.1%

出典：株式会社インサイト「農福連携に関する消費者アンケート調査結果（令和4年度）」

### 企業の農福連携の商品に対するイメージ



[複数回答 n=76]

出典：一般社団法人日本基金「農福連携に関するアンケート調査結果（令和4年度）」

# ノウフクJASの概要



## JAS (日本農林規格)とは

食品・農林水産分野において農林水産大臣が定める国家規格です。国内市場に出回る食品・農林水産品の品質や仕様を一定の範囲・水準に揃えるための基準です。

品質保証の  
JASマーク



環境にやさしい  
有機JASマーク



特色ある食品等の  
特色JASマーク



## ノウフクJAS 基本情報

正式名称	障害者が生産行程に携わった食品の日本農林規格 (JAS0010) (平成31年3月29日農林水産省告示594号)
適用範囲	障害者が農林水産業における生産行程に携わった生鮮食品及びこれらを原材料とした加工食品
認証を行う農林物資の区分	障害者が生産行程に携わった食品
要求事項	<p>ノウフク生鮮食品</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>主要な生産行程に障害者が携わっていること。</b></li> <li>● 外部からの問い合わせに応じて、当該ノウフク生鮮食品の主要な生産行程のうち障害者が携わった主要な生産行程を回答できること。</li> </ul>
	<p>ノウフク加工食品</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>ノウフク生鮮食品を、少なくとも1種類以上使用すること。</b></li> <li>● 原材料のうち上記に規定するものについては、受け入れから使用まで、他のものが混ざらないよう区分して管理すること。</li> </ul>
対象事業者	<p>生産行程管理者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ノウフク生鮮食品、ノウフク加工食品の生産を行い、その食品にJASマークを貼付する事業者</li> </ul>
	<p>小分け業者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自ら生産せず、仕入れたノウフク生鮮食品又はノウフク加工食品を小分けしてJASマークを再貼付する事業者</li> </ul>

### 登録認証機関 (令和6年3月現在)

一般社団法人日本基金 (東京都千代田区) / 特定非営利活動法人環境保全米ネットワーク (宮城県仙台市) / 株式会社オーガニック認定機構 (福岡県福岡市) / 株式会社ACCIS (北海道札幌市) / 特定非営利活動法人有機農業認証協会 (大阪府吹田市) / 一般社団法人日本農林規格認証アライアンス (東京都大田区)

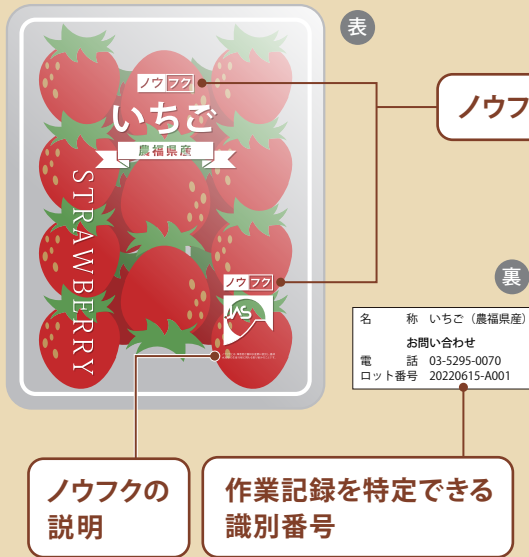
## 東京五輪や大阪万博の「持続可能性に配慮した調達基準」にノウフクJAS

ノウフクJASは、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の『持続可能性に配慮した農産物の調達基準解説』の推奨基準となりました。また、大阪・関西万博の『持続可能性に配慮した調達コード(第2版)』でも推奨基準となり、「ノウフクJAS」を含む障がい者が主体的に携わって生産された農産物・畜産物を「最大限調達することが推奨される」と、さらに一歩前進した書きぶりとなりました。

# ノウフクJASの表示方法

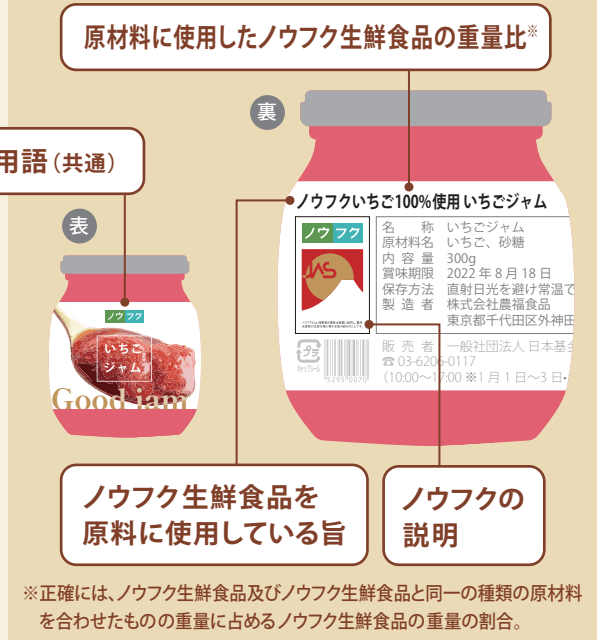
## ノウフク生鮮食品

包装・容器、送り状、または製品に近接した掲示、その他見やすい場所に表示



## ノウフク加工食品

包装・容器に表示



# ノウフクJAS 認証取得の流れ

※登録認証機関により異なる場合があります。

※取得手順の詳細は、各登録認証機関にお問い合わせください。

## 申請希望者

- step 01 **JAS規格の制度についてよく知る**  
JASの基準(ノウフク生鮮食品/加工食品と呼べる商品の要求事項)を満たしているかどうかを確認してください。
- step 02 **講習会を受講する**  
最新の講習会の案内は登録認証機関のウェブサイトをご覧ください。
- step 03 **申請書を作成・提出する**

## ノウフクJAS生産行程管理者講習会のご案内

ノウフクJASの生産行程管理者講習会は随時、開催されています。講習を受講していただくと認証取得までの一連の流れをご理解いただけます。参加を希望される方は、登録認証機関のウェブサイトからお問い合わせください。

## 登録認証機関

- step 04 **検査員による書類審査・実地検査**

- step 05 **判定員が認証の可否を判定**

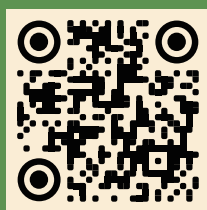
**公表**



# ノウフクJAS認証品目

ノウフクJAS 認証品目の一覧は、  
ノウフクWEBでご覧いただけます。

<https://noufuku.jp/know/jas/#jas-seisan>



パンフレットに関するお問い合わせ

## 農福連携等応援コンソーシアム

農林水産省 農村振興局 農村政策部 都市農村交流課  
農福連携推進室 Tel.03-3502-8111 (代表)

一般社団法人日本基金

Tel.03-5295-0070

[info@nipponkikin.org](mailto:info@nipponkikin.org)  
<https://nipponkikin.org/jas>

